

公益社団法人日本リハビリテーション医学会
平成27年度 第5回理事会 議事録

日 時 平成27年11月21日(土) 12時00分～16時00分
場 所 都市センターホテル 701
構成員 理事20名、監事3名
出席者 理事長 水間正澄
副理事長 才藤栄一 出江紳一
理 事 浅見豊子 石川 誠 久保俊一 近藤和泉
佐浦隆一 志波直人 白倉賢二 菅本一臣
千田益生 帖佐悦男 椿原彰夫 道免和久
芳賀信彦 正門由久
監 事 朝貝芳美 木村彰男 田島文博
第53回学術集会幹事 池田 巧
欠席者 副理事長 安保雅博
理 事 上月正博 島田洋一
事務局幹事 川手信行
専門医会幹事長 大串 幹

議 題

I 報 告

(1) 業務執行理事会報告

水間理事長から平成27年度第5回業務執行理事会(Web会議)の報告があった。

(2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況の報告があり、医師以外の会員の入会を勧めるよう依頼があった。

(3) ISPRM 実行委員会報告

才藤副理事長から次のような報告があった。実行委員会はこれまで7月12日、9月23日に2回の実行委員会を開催し、本日午前に第3回実行委員会を開催した。第3回に先立ち、11月19日に Kenes とのキックオフミーティングを行い、才藤委員長と道免副委員長が参加し ISPRM の組織と役割分担について確認を行った。また、11月3日にはクアラルンプールに出張し、2016年のマレーシア ISPRM の準備状況等の視察を行ってきた。ISPRM2019を成功させるためにもマレーシアへの支援が重要で、日本からの参加者も各理事が最低でも5人は派遣して欲しい。なお、マレーシアへの参加に向けては久保53回学術集会会長の好意により、申し込み取りまとめ等の支援が得られるので、各理事は参加者名簿を道免理事に

送るよう要請があった。さらにマレーシアに対しては、来年度リハ医学会から 100 万円の支援を行いたい。実行委員会の組織については、次回理事会に提出する。

(4) 寄附金受入れ状況報告（8～10月分）

欠席の安保副理事長に代わって水間理事長から、学会誌に挟み込んだ寄附金振込依頼書を使った会員からの 8～10月分寄附金受入れ状況について報告があった。

(5) その他

①全国リハビリテーション医療関連団体協議会

水間理事長から第 5 回及び第 6 回会長会議の報告があった。

②大規模災害リハビリテーション関連団体協議会（JRAT）

佐浦理事から第 30 回 JRAT 戦略会議の報告があった。この中では特に茨城の災害の教訓から、大規模災害時における各機関の連携及びリハ医の存在の重要性について議論があり、今後検討していくとの説明があった。

Ⅱ 重要審議事項

(1) 新専門医制度について

芳賀理事から新専門医制度に関する現時点での検討状況等についてそれぞれ説明があり、審議が行われた。

①日本専門医機構リハ科領域委員会委員の変更について

研修プログラムの審査は機構の領域委員会が第 1 次審査を行うが、実質的に本医学会の施設認定委員会、資格認定委員会の委員を中心に行うこととなるため、現在登録している機構委員の変更を行うことについて説明があり、審議の結果、方針を承認し人選は専門医制度委員会に一任することとした。

②専門医更新に必要な費用について

機構専門医の更新の際は、現行学会専門医更新費用 2 万円に加えて機構に 1 万円の認定料を納入してもらうこととなるため、更新費用をどのように設定するか審議が行われ、理事会としては機構から委託料が 2 千円（未定）学会に戻ることと考えれば、1.8 万円の更新費用、1 万円の認定料とする方向とし、専門医制度委員会で再度検討することとした。

③研修プログラムの公募スケジュールについて

研修プログラムは細部の調整を行い機構に提出する。これに基づき 12 月 1 日から申請受付を開始するが、機構ではその締め切りを 1 月 31 日に想定している。しかし年末年始を挟むことから、リハ科領域では 2 月 15 日を締め切りとしたい。この案について承認し、詳細の取り決めを専門医制度委員会に一任した。

④更新基準について

更新基準は機構からのコメントを基に最終版として機構に提出するが、移行期間中の更新単位の換算については年次による計算ではなく過去5年分を認めてもらうよう機構に要望したい旨説明があり、承認された。この更新基準について、自治医科大学卒業生は9年間指定された機関での研修が義務付けられているが、その中に回復期病院は無いのでどのように取り扱うか質問があり、現在機構において、自治医科大学、防衛大学、産業医科大学の取り扱いを検討中である旨説明があった。また、取得可能な単位数は、学会単位でカウントされるのか個人単位でカウントされるのか質問があり、リハ科領域としては規制をしないとの説明があり了承された。さらに、他の関連学会として位置付けられている日本リハ医学会専門医会学術集会に代わる秋季学術集会については、引き続き関連学会として位置付けることが確認された。

⑤新専門医制度における専門医試験の時期等について

新専門医制度においては、研修プログラムを終了した後速やかに専門医試験を受験できる状況を考慮し、現行の3月試験を7月上旬に繰り上げるか研修終了見込みのまま3月受験を可能とするかについて提案があり、審議の結果、研修プログラムを終了してから試験までの期間を空けるべきではないとの意見によって、終了見込みの3月に試験を行えるよう検討していくこととした。このとき、現行の学会専門医制度の試験に不合格であった者に対していつまで再受験を認めるべきかの判断が必要となり、過去の事例から3回程度認めるとの提案があったが、審議の結果、5回まで認めることとした。

⑥日本臨床神経生理学会からのサブスペシャリティの要望について

日本臨床神経生理学会から、臨床神経生理領域をリハ科領域のサブスペシャリティとしてほしい旨の要望があり、審議の結果、承認することとした。

⑦他学会からの受講証明書発行依頼の取扱いについて

日本リウマチ学会専門医資格更新を希望するリハ医学会会員から、リハ医学会での講習会受講証明書を発行して欲しいとの要望があったことから、審議の結果、今後特別に発行する証明書については「審査料、登録料及び手数料等の費用に関する内規別表」に規定する「各種証明書発行手数料」の額徴収し発行することとした。

Ⅲ 審議事項

(1) 第53回学術集会の準備状況について

久保第53回学術集会会長及び池田第53回学術集会幹事から、学術集会準備状況について次のような説明があった。共催セミナーは35本程度まで準備しているが、展示が少ない。各理事に展示の呼びかけをお願いしたい。審議の中で木村監事から、学術集会最終日に開催されている日本脳

性麻痺研究会は学術集会との共同企画でもないことから、学術集会の中に入れるのは問題があるので見直すべきとの発言があり、来季に向けて検討することになった。

(2) 平成27年度上半期中間決算について

欠席の安保副理事長に代わって事務局長から、平成27年度上半期中間決算について次のような説明があった。9月末時点までに会費収入、研修会事業収入などがほぼ予算に近い収納を終えていること、支出がまだ少ないことなどから現金残高は1億2800万円ほどあり、下半期の執行見込を踏まえても年度末には5千万円弱の現金残高となる見込みである。平成25年度の財政と比べると安定している。個々の事業に関して特に50周年事業費では ISPRM 招致経費の支出が予算額を超過しているものの、英文誌の刊行準備費用を含めても50周年事業費予算の範囲内で収まる見込みである。負担金の明細のうち、予算額に医療研修推進財団への負担金60万円があるが、これは PTOTST 養成施設教員講習会協力金との重複計上であり、支出は生じない。第52回学術集会中間決算報告によると収支はゼロとなっているが、医学会への貢献は約197万円程度となる。これらの説明に基づき審議を行った結果、中間決算は承認された。

(3) 学術集会のあり方検討委員会について

水間理事長から午前中に開催された検討委員会の審議状況について次のような説明があった。

①学術集会の名称及び回次表記について

秋の学術集会をひとまず「秋季学術集会」とし、今後の開催を重ねる中で改めて検討していく。春の学術集会は従来通りの名称とする。回次表記については、2017年度を「第1回秋季学術集会」とする。「秋季」の表現について「秋季」とするか「秋期」とするかの疑問が出されたが、第1回会長の菅本理事の考えを示してもらうこととした（その後、「秋季」とすることが決定された。正式名称は「第〇回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会」）。また、春の学術集会ではコメディカルを含む会とし、秋はシンポジウム、教育講演、一般演題を中心とする。

これらの委員会案について、学術集会名称のメリットを考える必要があり、特色を出すのであれば特別の名前を考えるべきとの意見も出たが、審議の結果、委員会案のとおり承認された。

②学術集会におけるコメディカル発表の扱いについて

学術集会プログラム上、コメディカルセッションは会員発表とは区別することで、定款上の問題はないと考える。日程的には、現行の3日開催を日曜日までの4日開催とすることも可能とし、大会長に一任する。

これらの委員会案に対し、病院長会議でコメディカルという表現を使わないことになったので表現を変えるべきとの意見があり、審議の結果、関連専門職セッションに統一することとし、委員会案が承認された。この英

語表記については別途検討することとなった。

③抄録の電子化について

抄録集の作成が学術集会に委ねられたこと、抄録集が重く郵送費用も高額となることから、日程のポケット版を冊子で発行し、抄録は HP やアプリから検索可能で、医学中央雑誌、J-Stage に掲載することを前提として電子化を行う。

審議の結果、委員会案が承認され、第 53 回学術集会から適用することとした。

(4) 全国医学部リハ科責任者連絡会（仮称）について

水間理事長から、11 月 28 日（土）に開催される全国医学部リハ科責任者連絡会（仮称）準備会の開催内容について、意見があれば来週までに水間理事長に連絡すること、連絡会の在り方については準備会終了後 5 月頃までに各大学の要望意見を聞いていく旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(5) 学会誌のお知らせ欄の取扱いについて

道免理事から、学会和文誌のリニューアルに当たって、学会誌掲載のお知らせについては会則上学会誌の媒体について定義されていないことから、全て電子版に掲載し、冊子体学会誌にはお知らせの項目及び概要のみを掲載する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。関連して、医学会 HP が非常に見難いという意見が出され、広報委員会で予算化を行い、リニューアルを検討することとした。

(6) 英文誌の進捗状況について

道免理事から、英文誌のリニューアルの進捗状況について次のような説明があった。英文ジャーナルは、来年春に創刊し、2018 年には PubMed 掲載を目指す。このため 50 本の論文掲載をめざして募集を行う。PubMed 掲載後 2020 年には Impact Factor の獲得を目指す。組織体制については現編集委員会を中心に、Editorial Review Board を設置しメンバーの公募を行う。創刊にあたっては文科省の科学研究費補助金の申請を行っているが、創刊後初年度費用として 250 万円程度要する見込みである。また、掲載料は、当面 50%割引の 1 万円（一頁当たり）としたい。これに対し、英文ジャーナルの質を高めるためには Editorial Review Board に理事全員が名を連ねる必要があり、Corresponding Member は全員入ってもらう必要があるとの意見が出され、審議の結果、この方向で検討していくこととし、その他は原案のとおり承認された。

(7) 平成 28 年度海外助成募集について

佐浦理事から平成 28 年度海外助成募集案について説明があり、審議の結果、推薦者の要件「出身教室の教授」を「所属教室の教授」に修正し、承認された。

(8) 物品調達に関する内規案について

安保副理事長に代わり事務局長から、科学研究費補助金の申請を行うにあたりリハ医学会における物品調達に関する内規を制定する必要があるとの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され会則検討委員会に附議することとした。

(9) (会則検討委員会) システム委員会内規案について

欠席の上月理事に代わって水間理事長から、システム委員会内規案の会則検討委員会検討内容について説明があり、審議の結果、案のとおり承認され、本日施行することとした。

(10) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

(11) 社会保険等委員会関係

石川理事から内保連、外保連、報酬対策委員会、在宅生活期リハ研修会の説明があり、了承された。

(12) プライマリ・ケア学会との関係について

石川理事から第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の合同企画案について説明があり、審議の結果、承認された。

(13) 資格認定委員会

①指導医の新規認定について

浅見理事から指導医の新規認定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(14) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②更新・年次報告による認定要件確認結果(案)について

椿原理事から研修施設の更新・年次報告による認定要件確認結果(案)について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

(15) 1-f 新規関連学会の申請について

正門理事から、日本腎臓リハビリテーション学会からの関連学会申請について次のような説明があった。関連学会はその要件として1,000人以上の規模であることが求められているが、教育委員会に人数規模だけでは排除されるものではないとの記録があり、実際に要件人数に満たない学会も認定している例があることから、関連学会として認めていただきたい。審議の結果、原案のとおり承認された。

引き続き当該学会の単位申請について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(16) 2-f (初回) 項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から1件の生涯教育単位の申請について説明があり、審議の結

果、原案のとおり承認された。

(17) 実習研修会について

正門理事から 10 月に開催した嚙下障害実習研修会の赤字補てんについて説明があり、審議の結果、補填を承認した。なお、受講料を 1,000 円上げれば対応できたと思われることから、次回から受講料の見直しを行うよう要請することとした。

(18) その他

①後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②平成 27 年度大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会の開催について

水間理事長から、日本医師会・日本医学会共催の女性支援担当者連絡会について説明があり、審議の結果、出席が承認された。なお、今回は、日本医師会から水間理事長に対して学会としての事例報告の依頼があった旨説明があり、了承された。出席者は、RJN 担当の浅見理事が調整することとした。

③平成 28 年度代議員総会当日の日程案について

水間理事長から、第 53 回学術集会会長の元で調整していただいている代議員総会当日の日程、会場案について説明があったが、全体的に改めて調整を行い、次回提案することとした。

IV 報告事項

(1) 各種委員会報告

平成 27 年 10 月 22 日から 10 月 31 日に開催された以下の委員会について担当理事から報告があった。

①編集委員会 道免理事

口頭で、JJRM53 巻 9 月号以降の特集担当理事について次のとおり報告があった。9 月道免理事、10 月菅本理事、11 月上月理事、12 月帖佐理事。

②施設認定委員会 椿原理事

③試験委員会 芳賀理事

④障害保健福祉委員会 久保理事・菅本理事

(2) リハビリテーション医学ガイド改訂版について

千田理事からリハビリテーション医学ガイド改訂について進捗状況の報告があったが、表紙や掲載写真について再考するよう意見が出され、広報委員会で改めて検討することとした。なお、掲載写真は各理事が提供することとした。

(3) RJN 報告

浅見理事から、専門医会学術集会企画及び平成 27 年度医学生、研修医等をサポートするための会へ申請に対する日本医師会からの承認について報告があった。

(4) リハ・サミット報告

帖佐理事から、11 月 3 日に開催されたリハ・サミットについて報告があり、その席上で採択されたリハ・サミット宣言文の報告があった。宣言文については、文章中の句読点の位置、「住民の自助力」ではなく住民は互助であるとの意見が出され、帖佐理事からリハ・サミット実行委員会に修正要望を伝えることとし、修正後に医学会 HP に掲載することとした。

(5) JARD 報告

近藤理事から、JARD 会議について次のような報告があった。来年度から JARD が行っているデータ収集を打ち切る。データは保存し活用するが、JARD の活動を休止する。来年度以降、新たな活動を立ち上げる。この方針を 3 協会に伝えて理解を求める。データ保存のための最低限の予算は確保する。データベースは ICF を中心に構築していく。データベースに関しては、全国リハ関連団体協議会にも方針を伝えていく。

(6) 2-f (2 回目)、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事 2-f (2 回目)、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について報告があった。

(7) 2016 年度単位付与項目について

正門理事から 2016 年度単位付与項目のお知らせと新専門医制度についての会員向け案内の報告があった。

(8) 2016 年度以降の単位付与項目について

正門理事から 2016 年度以降廃止される単位付与項目の専門医、認定臨床医向けのお知らせについて報告があった。

(9) 病態別実践リハ研修会について

正門理事から平成 27 年度病態別実践リハ医学研修会（神経系障害）について報告があった。

(10) 教育委員会主催研修会開催日程について

正門理事から平成 28 年度の教育委員会主催研修会日程について報告があった。7 月 23 日の病態別実践リハ研修会が理事会と重なっていることを確認し、臨床研修医等医師向けリハ研修会は、2 回開催を検討するよう水間理事長から依頼があった。

(11) その他

①事務局の年末年始における業務について

水間理事長から、12 月 28 日を 12 月 26 日に振り替えて 26 日を仕事納めとすることとした旨報告があった。

②水間理事長から、里宇先生からの報告で、脳卒中ガイドラインの英語文献に誤りがあったため、12 月号の学会誌に訂正記事を出すとの説明が

あった。

以上